

近美コレクション

Museum Collection

2021 年 2 月 27 日[土] — 4 月 4 日[日]

池田良二展

【展示室 A 1 階】

池田良二（1947-）は根室郡根室町（現・根室市）に生まれました。武蔵野美術大学で油彩を学んだ後に銅版画の技法を独学、フォトエッチングを中心に様々な銅板技法を駆使し、アントニ・タピエス展に刺激を受け、タピエスをオマージュしたシリーズを制作します。1985 年、母の死に伴い帰省した際に廃墟となっていた旧落石無線送信局と出会い、その外観と内観を撮影した写真を使用しは

じめます。2004 年以降は、「円環」をテーマに、焰、石、卵を使ったインスタレーションを撮影した写真を取り込むなど、生と死、存在と不在を暗示する独自の作風を確立しました。

本展では、昨年度当館で新たに収蔵した作品を交えて、初期から近作にいたる池田良二の版画作品を紹介します。

No.	作品名	制作年	技法・材質
1	à/avec Antoni Tàpies Découvert du Manuscrit 手稿の発見	1979(昭和 54)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
2	à/avec Antoni Tàpies Scattered Seeds 散種	1979(昭和 54)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
3	à/avec Antoni Tàpies Together again	1979(昭和 54)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
4	à/avec Antoni Tàpies Martin	1979(昭和 54)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
5	à/avec Antoni Tàpies Center	1979(昭和 54)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
6	à/avec Antoni Tàpies Varanasi	1980(昭和 55)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
7	à/avec Antoni Tàpies Manuscript 手稿	1980(昭和 55)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
8	à/avec Antoni Tàpies Remembrance	1980(昭和 55)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
9	à/avec Antoni Tàpies Nobody Knows my mind	1981(昭和 56)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ハーネミューレ紙に雁皮刷り
10	Reborn door 再生される扉	1988(昭和 63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
11	The stage on the parting point 分岐点の舞台	1988(昭和 63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
12	Floating wall 浮上する壁	1988(昭和 63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
13	Light crossing border 越境する光	1991(平成 3)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
14	Untitled A	1998(平成 10)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り

No.	作品名	制作年	技法・材質
15	Untitled B	1998(平成 10)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
16	Stratum of locus 所在の地層	2002(平成 14)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
17	Flame of circularity 円環する焰	2004(平成 16)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
18	Circle of breath 呼吸する円環	2005(平成 17)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
19	Distance of remembrance B 記憶の距離 B	2006(平成 18)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
20	Winged seeds B 翼をもつ種子 B	2006(平成 18)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
21	Flame of a channel 海峡の焰	2007(平成 19)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
22	Scenery of the north boundary 北境の風景について	2013(平成 25)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り
23	Boundaries by stealth – Ochiishi 秘やかな境界 ―落石	2013(平成 25)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント・ベラン・アルシュ紙に雁皮刷り

一原有徳展

【展示室 A 1 階】

一原有徳（1910-2010）は徳島県に生まれました。3 歳のときに家族とともに北海道に渡り、小樽を拠点に版画制作を行いました。1950 年代後半より、石版石を使い一度しか刷れない技法である「モノタイプ」に着手します。その後も一貫してモノタイプを制作、あわせて金属凹版による実験的な版画作品やオブジェなど、さまざまな表現

を追求し、国際的にも高い評価を得ています。その作品は抽象的な表現でありながら、鑑賞者の想像を刺激し、架空の物質世界へと誘います。
本展では、幅数 m を超える大型の作品を含め当館の所蔵品を中心に、モノタイプ、金属凹版、オブジェと幅広い技法、表現による多彩な作品世界を紹介します。

No.	作品名	制作年	技法・材質
1	変身	1958～1959(昭和 33～34)	石版モノタイプ、紙
2	SON	1960(昭和 35)	アルミ版モノタイプ、紙
3	PON	1974+1980(昭和 49+55)	銅版モノタイプ、紙
4	LEO	1978(昭和 53)	モノタイプ、紙
5	火	1962(昭和 37)	アルミニウム版腐蝕・骨筆・糸、紙
6	X II 1	1964(昭和 39)	アルミニウム版腐蝕、鉄板天然腐蝕、銅版腐蝕、丸鋸、薬剤カプセル、するめの耳、トカゲの皮、パッキング、時計の歯車、時計文字板、針、モーター部品、石油缶注ぎ口、紙
7	UUR(b)	1973+1982(昭和 48+57)	鉄板天然腐蝕、紙
8	放	1976(昭和 51)	アルミニウム版腐蝕、紙
9	HOW 2	1977(昭和 52)	アルミニウム版腐蝕、紙
10	HBD(b)	1984(昭和 59)	自動車ボディー板・電気サンダー、紙

No.	作品名	制作年	技法・材質
11	95.O4	1995(平成 7)	アルミニウム版腐蝕、電気ドリル、紙
12	SON・ZON	1960+1979(昭和 35+54)	モノタイプ・紙
13	SON 1001	1980(昭和 55)	ステンレス版モノタイプ、紙
14	ZON 1001	1980(昭和 55)	ステンレス版モノタイプ、紙
15	S.M.円(A)	1986(昭和 61)	蛍光塗料・熱版、ステンレス(3 点組)
16	HMMA	2001(平成 13)	アルミニウム版モノタイプ、紙
17	COM ZOM 1992ー1	1992(平成 4)	アルミニウム版モノタイプ、紙、木(筒)
18	SYC20	1989(平成元)	アルミニウム版腐蝕、紙
19	SY(b)33	1989(平成元)	アルミニウム版腐蝕、紙
20	MTU21	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕・電気ブラシ、紙
21	SY(b)10	1989(平成元)	アルミニウム版腐蝕・電気ドリル、紙
22	ENN	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕・ボンド・電気ドリル、紙
23	WY30	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕、紙
24	MTU20	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕・電気ブラシ、紙
25	MTR	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕、紙
26	NR1	1990(平成 2)	アルミニウム版腐蝕、紙
27	SY(b)9	1989(平成元)	アルミニウム版腐蝕、紙
28	WY31	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕、紙
29	WY33	1991(平成 3)	アルミニウム版腐蝕・塗料、紙
30	SIO 12	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
31	SIO 13	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
32	SIO 10	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
33	SIO 11	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
34	SIO	1992(平成 4)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
35	SIO 14	1993(平成 5)	アルミニウム版腐蝕、モノタイプ、紙
36	SON(b)	1960(昭和 35)	モノタイプ
37	SAT(a)	1975(昭和 50)	トタン板天然腐蝕、切抜き
38	風の目	1979(昭和 54)	金属凹版
39	標識板 10	1981(昭和 56)	ほうろう標識板天然腐蝕
40	F(nor)3	1988(昭和 63)	鉄板天然腐蝕、電気ドリル
41	RON	1998(平成 10)	モノタイプ

No.	作品名	制作年	技法・材質
42	QZ1	1999(平成 11)	金属凹版
43	QZ3	1999(平成 11)	金属凹版
44	MOG	2000(平成 12)	アルミニウム版腐蝕

* No.36～ は友田コレクション

日本のガラス ―江戸から現代まで―

【展示室 A 2 階】

日本においてガラスが盛んに製造されるようになったのは、江戸時代の半ばのことです。明治・大正時代にはガラスの生産技術が発達し、産業化が進みました。昭和に入るとガラスは、美術展に作品が出品されるようになり、芸術の一分野に発展しました。本展覧会では、江戸から明治・

大正にかけての和ガラスにはじまり、岩田藤七と各務鑛三^{かがみこうぞう}を先達とする昭和のガラス工芸作家、そして伊藤孚や扇田克也ら現代ガラス作家の作品により、日本のガラスの歩みをたどります。

I 日本のガラスの黎明

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
1		菊唐草文蓋物(型吹きビードロ碗)	江戸時代	ガラス
2		切子蓋物	江戸時代末期	ガラス/型吹き、カット
3		菊形蓋物	江戸時代	ガラス/型吹き
4		ちろり	1870 年代	ガラス
5		花に蝶文徳利	明治時代	ガラス/エナメル彩
6		花に蝶文徳利	明治時代	ガラス/エナメル彩
7		乳白地桃色ぼかし徳利	大正時代	ガラス

II 二人の先達―岩田藤七と各務鑛三―

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
8	岩田藤七	色替舟虫手花器	1935(昭和 10)	ガラス/宙吹き、ホットワークによる装飾
9	岩田藤七	トンボ玉風一輪挿	1936(昭和 11)	ガラス/宙吹き
10	岩田藤七	花器・おぼろ夜	1958(昭和 33)	ガラス/宙吹き
11	岩田藤七	花器・霞		ガラス/宙吹き
12	岩田藤七	水指・雲間	1975(昭和 50)	ガラス/宙吹き
13	岩田藤七	花器・ナイル河畔	1970(昭和 45)	ガラス/宙吹き

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
14	岩田藤七	貝・浜辺の歌	1963(昭和 38)	ガラス/宙吹き
15	各務鑛三	皿・追憶	1929(昭和 4)	ガラス/エングレーヴィング
16	各務鑛三	鳥獣文飾鉢	1930(昭和 5)	ガラス/被せガラス、カット、エングレーヴィング
17	各務鑛三	ひょうたん型花器	1940(昭和 15)	ガラス/宙吹き、グラブュール
18	各務鑛三	飾花器	1969(昭和 44)頃	ガラス/宙吹き、気泡封入
19	各務鑛三	花器	1978(昭和 53)	ガラス/カット

Ⅲ 昭和の展開

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
20	小柴外一	梅文ランプシェード	1968(昭和 43)	ガラス/パート・ド・ヴェール
21	淡島雅吉	しづくガラス デキャンターセット		ガラス/型吹き
22	淡島雅吉	ブロット 花器		ガラス、鉄/鉄枠吹き込み
23	佐藤潤四郎	三蔵法師舎利器とカバー	1980～84(昭和 55～59)	ガラス/カット
24	佐藤潤四郎	鉄枠吹込花器	1986(昭和 61)	ガラス/鉄枠吹き込み
25	藤田喬平	飾筥・十六夜	1982(昭和 57)	ガラス/金属箔貼付、型吹き
26	藤田喬平	花瓶	1994(平成 6)	ガラス、レースガラス、金箔/宙吹き
27	岩田久利	花器・楼蘭	1980(昭和 55)	ガラス/色ガラス粉と金箔による装飾、宙吹き
28	岩田久利	花器	1987(昭和 62)	ガラス/宙吹き
29	岩田久利	緋赤流影文壺	1991(平成 3)	ガラス/被せガラス、宙吹き

Ⅳ 日本の現代ガラス

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
30	家住利男	P. 040901	2001(平成 13)	板ガラス/接着、ハンド・グラインダーによる彫刻、研磨
31	家住利男	V. 010702	2002(平成 14)	板ガラス/接着、ハンド・グラインダーによる彫刻、研磨
32	伊藤孚	円筒	2002(平成 14)	板ガラス、鉄板/サンドブラスト
33	塩谷直美	海を渡る夢	2002(平成 14)	ガラス/キャスト、サンドブラスト、研磨
34	米原眞司	静かな赤	2001(平成 13)	ガラス/被せガラス、宙吹き、ピックアップ、サンドブラスト、エッチング

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
35	瀧川嘉子	境 KYOH No.1	1985(昭和 60)	ガラス
36	扇田克也	ワタシノアヲゾラ	1991(平成3)	ガラス、銀箔/キャスト、サンドブラスト
37	扇田克也	アメノヒモアル	1991(平成3)	ガラス、銀箔/キャスト、サンドブラスト

この 1 点を見てほしい。

【展示室 A 2 階】

美術館の様々な活動の基礎となるのは、美術や美術館に関する調査・研究です。とりわけコレクションを対象とした調査や研究活動は、美術館の最も重要な役割のひとつであり、また、実物を所蔵しているからこそ可能となる活

用の領域でもあると言えるでしょう。
「この 1 点を見てほしい。」は、当館コレクションから学芸員が 1 点を選び、多角的な研究を通して作品の奥深い魅力を紹介するコーナーです。

No.	作家名	作品名	制作年	材質/技法
1	岩田藤七	水指・花	1972(昭和 47)	ガラス/型吹き
2	岩田藤七	蓋置		ガラス
3	岩田藤七	茶入・朧		ガラス/宙吹き
4	岩田藤七	金一輪挿		ガラス/宙吹き
5	岩田藤七	茶碗・三彩		ガラス/宙吹き